

団 体 名	蛍の住む加古川にしよう運動推進協議会		
団体の所在地	丹波市氷上町	代表者名	本庄 健吾

1. 事業名	ふるさとの川を学び、川を楽しもうー加古川の水辺探検ー		
2.実施期間	第1回 平成22年8月7日、8日 第2回 平成22年10月11日		
3.主な実施場所	氷上町本郷区加古川河川敷及びショッピングセンターゆめタウン1Fセンターコート		
4.活動形態	・実践活動		
5.活動内容・結果 (参加者、階層・人数等)	タイトル:ふるさとの川を学び、川を楽しもうー加古川の水辺探検ー 開催日:第1回 平成22年8月7日、8日 屋内の部と屋外の部を行う。 プログラム:川に住む生き物講座(屋内の部) 水生生物調査、カヤック・川釣り体験(屋外の部) 参加者:合計約350名 開催日:第2回 平成22年10月11日 屋内の部と屋外の部を行う プログラム:身近な川に住む魚の展示(屋内の部) 水生生物調査、カヤック・川釣り体験(屋外の部) 参加者:合計約150名 講師:当協議会代表 本庄健吾、関西学院大学非常勤講師 足立勲 (株)ささめ針 西本昌史 主催:蛍の住む加古川にしよう運動推進協議会 後援:丹波市、丹波市教育委員会、丹波県民局 協力:青垣いきものふれあいの里、本郷自治会		
6.成果・反響・ 反省点等	○川と親しみ楽しめる環境体験学習事業を通じ、河川が豊かな生態系を有していることやゲンジボタルの減少要因を伝えることができ、参加者の河川環境保全意識の高揚を図ることができました。また、加古川下流部にお住まいの参加者もあり、上流部と下流部の地域間交流を行うことができました。 ○環境保全活動を継続的に行うことにより、河川でのごみの投棄等、住民生活環境が与える負荷要素によってゲンジボタルがこれ以上減少することを防ぐことができ、将来に渡り、環境保全活動が継承される土台の形成が可能となりつつあります。 ○事業写真が丹波市の広報誌の表紙を飾りました。 ○カヤックや釣り体験等のアクティビティ要素を含めた事業の実施や小学校の環境教育野外活動への協力を通じ、河川の現況の説明や川と親しむ機会の提供が行えたと同時に、洪水を始めとした川の持つ危険性について情報発信することができ、環境学習の振興を図ることができました。		
7.成果物			
8.活動写真 説明	 「加古川の水辺探検」の風景		